

朝刊本紙 2026/10/01(木)

広島シリコンビル

期待と課題を聞く②

「半導体は自動車など既存産業との掛け合わせが重要」と指摘する早田教授



叡啓大 早田吉伸教授

「半導体が広島のための基幹産業になる」。この考えに疑問を投げかけるのが、叡啓大の早田吉伸教授だ。特定の産業に頼るのではなく、半導体を自動車など既存の産業と掛け合わせ、広島全体で新たな価値を生み出せるかが重要と主張する。（編集委員・宮沢徹）

半導体は広島のための基幹産業に育つでしょうか。米半導体大手の子会社マインクロンメモリジャパンの東広島市での投資は雇用創出、関連産業への波及、人材育成、研究開発など、地域経済に新しい可能性をもたらすだろう。ただ、「半

「半導体が基幹」に違和感

既存産業と融合で強みに

〈略歴〉佐賀市生まれ。熊本大学法学部卒、慶応大学大学院博士課程修了（システムデザイン・マネジメント学）。NEC勤務や政府への出向、東京大公共政策大学院客員研究員を経て、叡啓大は設立準備から携わる。2026年4月からソニーシヤルデザインセンター長。56歳。

「タ、エネルギーなどが相互に結びつき、業種間の境界が曖昧になっているからだ。

例えば自動車。ものづくりではあるが、自動運転を見据えればデジタル産業だ。医療や農業はデータ産業と融合している。次の基幹産業を探すだけでは本質を見失う。

「では、広島の経済は何を基軸にすればいいのでしょうか。」

自動車など既存の産業集積に、半導体などの先端技術を掛け合わせ、産業の構造をどう進化させるかという視点が重要だ。先端技術を地域の企業が素早く取り込み、新しい事業を生み出し、地域の課題を解決し、新しい市場を生む。変革と創出のスピード感こそが、地域の競争力になる。

「どのような変革と創出に期待していますか。」
広島には自動車や機械、鉄鋼など、リアルなモノを動かす産業の蓄積がある。ここに、多くの産業に使われる半導体という強みが加わる。

両者の融合は、AIが自動車やロボット、機械などの現実世界と結びつく「フィジカルAI」の時代に大きな強みになる。広島ならではの新たな産業や事業を生み出すことにつながるだろう。